

「移動平均線を考える」

移動平均線とは、ご承知の通り過去 x x 日間の平均値を線で結んだものです。

例えば、25日移動平均線だと、当日を含めた25日間。つまり、24日前～当日の株価を合計した平均値です。

そして、翌日になると、平均値を計算する期間が1日ずれます。

ところでん方式で、一番古い日（24日前）が追い出され、当日である新しい日が入ってきます。

一度に2日間追い出されて、代わりに新しい日が2日分入ってくるというわけではありません。

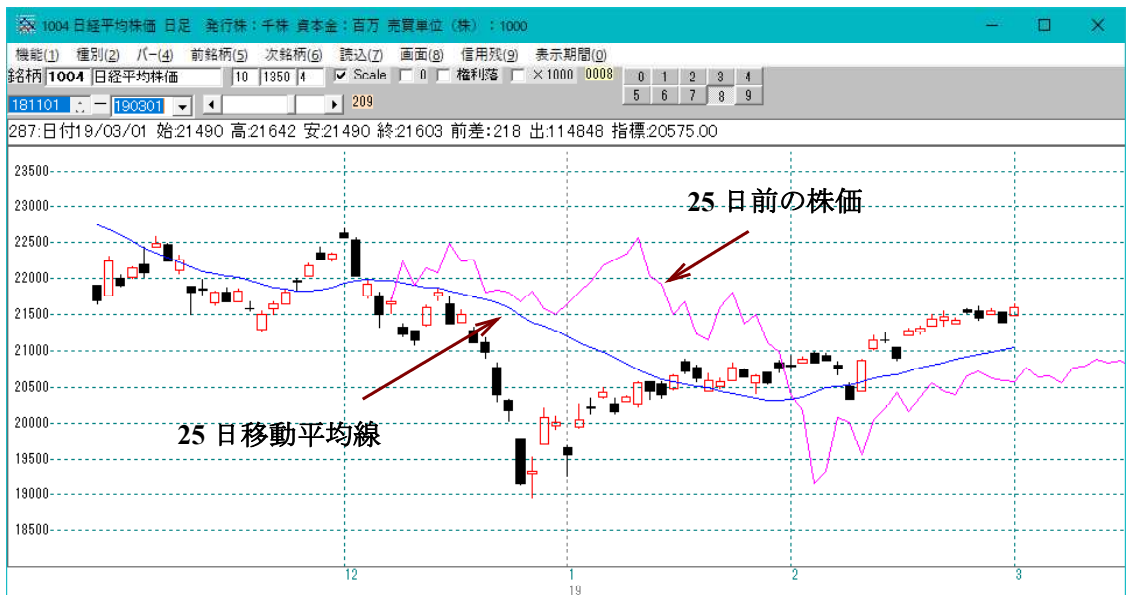
追い出された日・・・24日間・・・新しい日→合計25日間となります。

この追い出された日と、新しい日に注目すると移動平均線が上を向きそうか、または下を向きそうか、が分かります。

下のチャートは、「指標初期設定」を使い、

- 6 9. 権利落ち済みロソク足
- 4 3. 移動平均線 25日
- 9 3. 移動平均線任意ずらし 周期「1」 「25」日ずらし

を表示させたものです。



移動平均線が上を向く・・・25日前の株価 < 当日の株価

移動平均線が下を向く・・・25日前の株価 > 当日の株価

という理屈です。

25日移動平均線が上を向くか、下を向くかは、25日前の株価がとても重要な位置づけなのです。

中間の12日でもなければ、前日でもありません。間の日にちでどんなに動意付こうが、25日前の株価に集約されます。

そこで前ページのチャートのように、株価を25日先へずらして表示させると、目で見てそろそろ反転しそうだと分かりやすくなります。

93. 移動平均線任意ずらしの設定はこうなります。

■ 93. 移動平均線任意ずらし

「平均値計算日数」は1日分の株価＝終値なので「1」です。

ここを「5」としてしまうと5日移動平均線となってしまいます。「1」だと結局平均値計算は1日分だけとなり、終値を意味します。

「左右ずらし日数」は「25」です。これで、チャート右側へ25日分ずれて表示されます。

これにより、当日の足（ローソク足）と25日前の株価を目で見て比較することが出来ます。

「上下移動%」はずらしませんので、「0」となります。

指標周期編集画面

変更 閉じる 重書き 目盛合わせ 目盛表示

93. 移動平均線任意ずらし

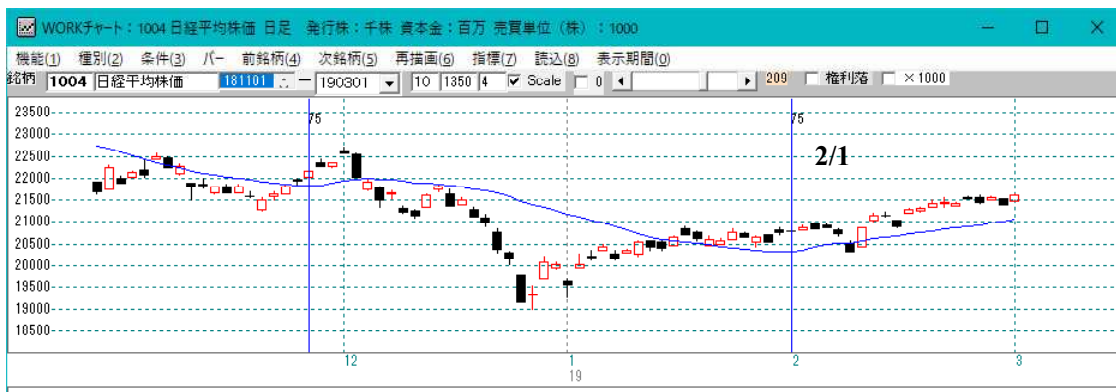
周期入力画面

平均線計算日数	1
左(-)右(+)ずらし日数	25
上(+)下(-)移動%	0
指標線の色	16711935

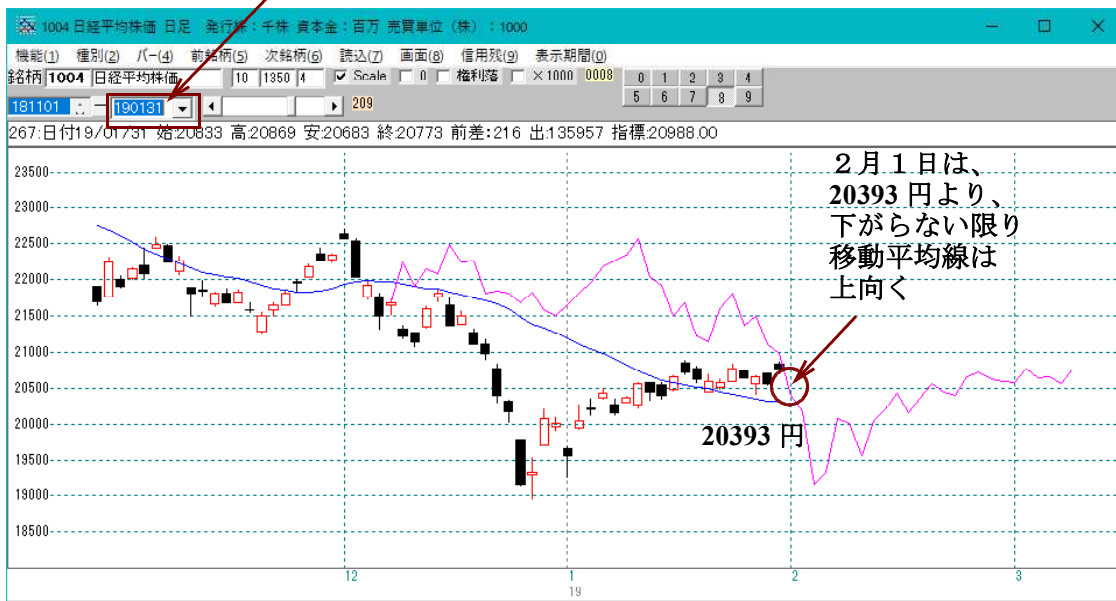
■ 25日移動平均線が上を向いた瞬間（V字）のポイント

直近では2月1日です。

WORK分析を使用。



チャート表示を1月31日までとしました。



1月31日の終値が、20773円です。翌日の2月1日に移動平均線が上を向くかどうかを調べてみましょう。

25日前の株価は、12月20日の20393円です。

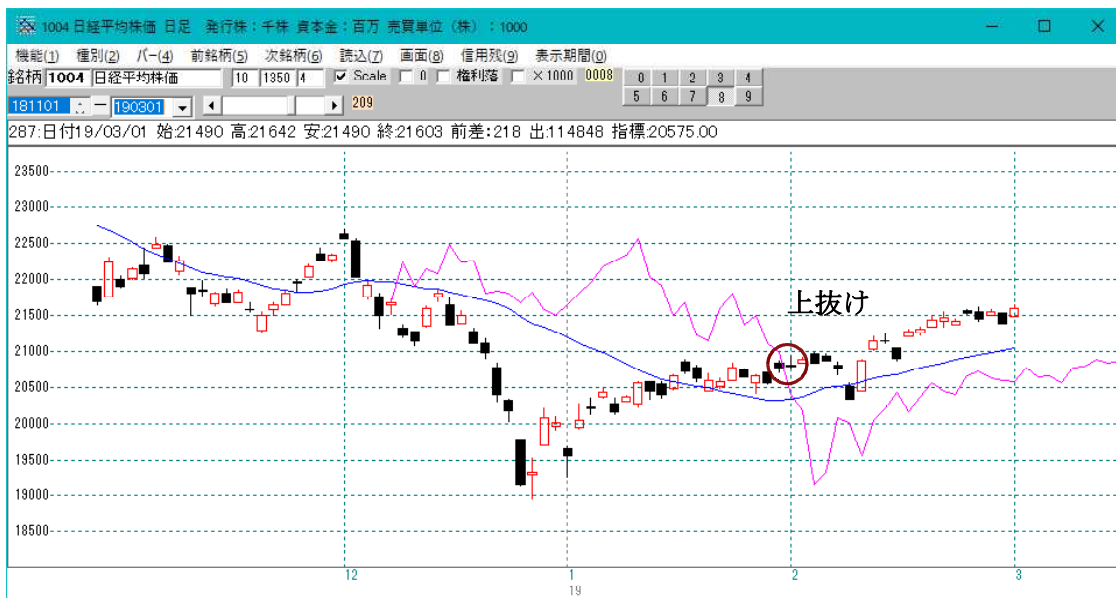
このことから2月1日は、20393円を下回らない限り移動平均線を上を向くとなります。

1月31日の株価が20773円ですから、その差は380円です。

同値だと向きは変わりませんので、381円安。これ以上値下がりしない限りは、上を向くとなります。

2月1日

25日ずらした線を上抜けてきました。移動平均線は上向きへ変化しました。

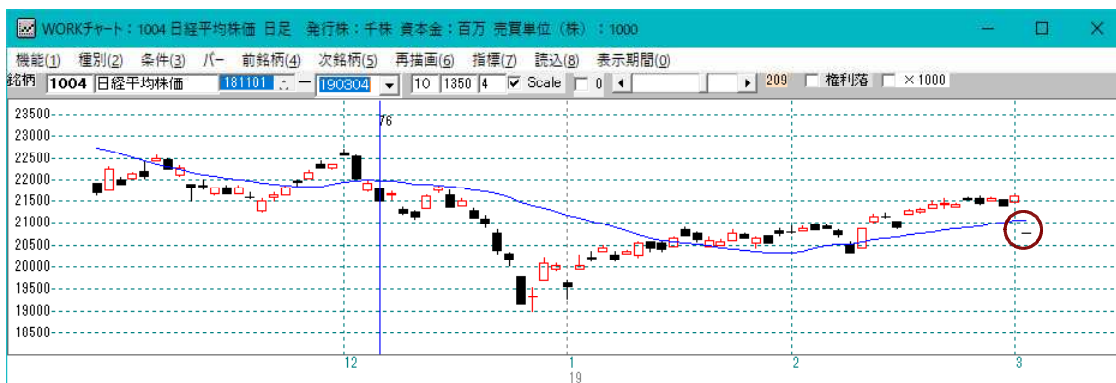


■直近（3月1日）では、明日（3月4日）いくらになったら下を向くのか？

3月4日から、25日前は、1月25日。終値は、20774円です。

20773円となったら下を向く、となります。

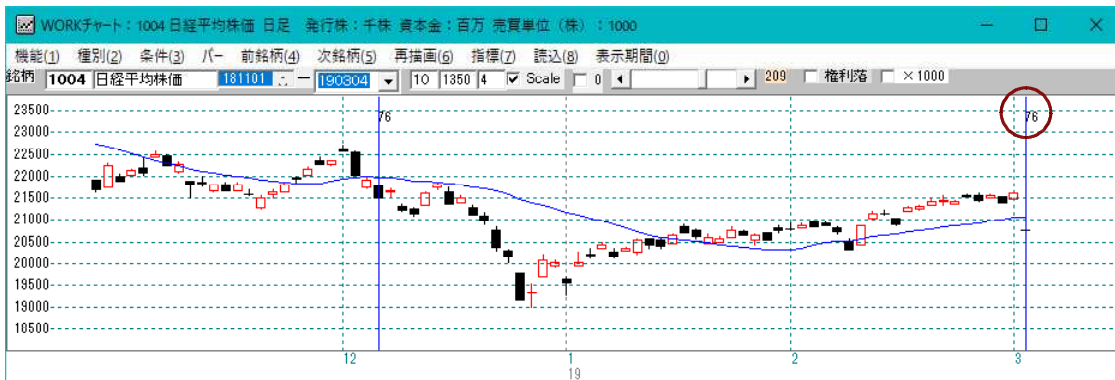
3月4日のデータを仮入力。4本値全て20774円とした場合、下記のようにチェックしても点灯しません。



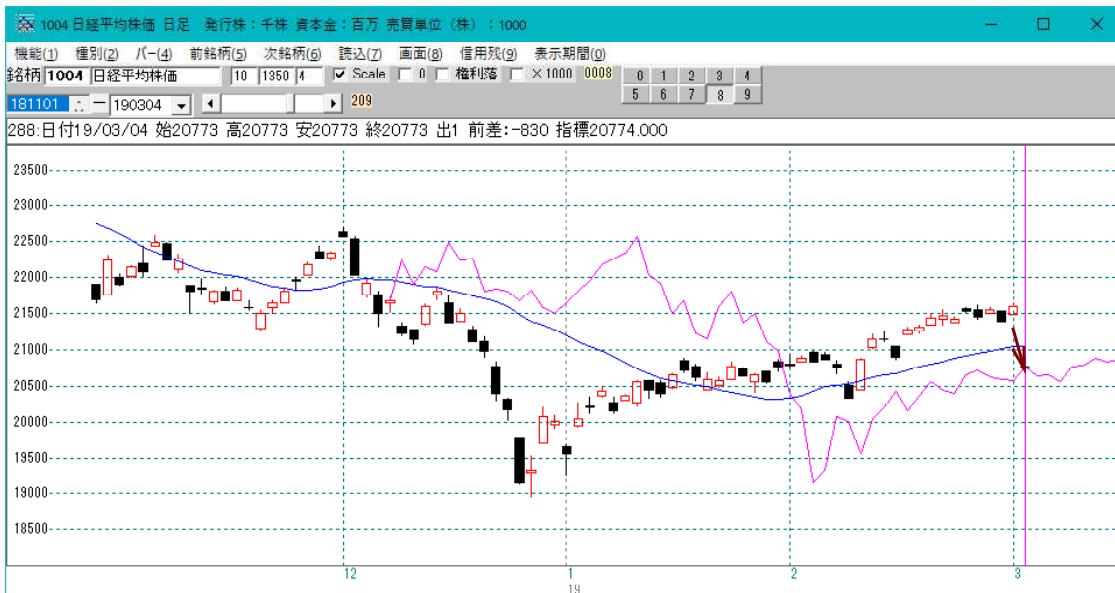
※仮データ入力は、「JP法株価分析システム・メインメニュー」から、左の列、上から2番目「株価修正」を使います。

20773円の場合

点灯しました。



今の相場付きでは、いきなりここまで下落する事もないでしょう。
仮にここからジリジリと下がりだし、ずらした線に接近してきたら、注意しましょう。



このように終値を先へずらして表示させると、今なら下支えの目安、転換ポイントとなります。

今回は、「指標初期設定」の機能を使って、一発で上記のチャートを表示させてみました。

便利な機能なのでまだ使っていない方は是非、お試し下さい。

分析チャートのみ、「機能」－「初期設定」からです。

設定方法はこちらにアップしてあります。

<http://www.neuralnet.co.jp/user/benkyou.html>

下の方、指標初期設定の使い方（分析チャート）です。